

大森 明  
OMORI Akira

■ 専門分野

会計学分野・サステナビリティ会計およびマクロ会計

■ 指導可能な研究テーマ

環境問題、資源問題、社会課題に対するミクロ・メゾ・マクロの会計アプローチ  
サステナビリティ経営の評価、環境会計、自然資本会計

■ 過去に指導した学生の修士論文題目

【2024 年度】

日本における生物多様性情報開示の現状分析―大手食品企業を例として―

【2020 年度】

サステナビリティ情報開示の決定要因と株式市場からの評価

Comparative Analysis of Water Disclosure in Chinese and Japanese Beverage Companies

【2018 年度】

新たなカーボン管理会計に関する一考察―ライフサイクルアセスメントとマテリアルフローコスト会計の連携―

【2017 年度】

国民会計における福祉の測定―サテライト勘定の考察を中心に―

【2013 年度】

新たな環境管理会計モデルの一考察―ライフサイクルにおけるマテリアルフローコスト会計と品質管理会計の統合―

【2012 年度】

統合報告のあり方に関する考察

■ 修士論文作成のための必読文献リスト

学生の研究テーマや就学状況によって異なりますので、入学後に助言します。

サステナビリティ会計全般については以下の文献が参考になります。

・Laine, M., H. Tregidga and J. Unerman (2021) Sustainability Accounting and Accountability (3rd. edition), Routledge.

研究方法については以下の文献が参考になります。

・田村正紀 (2006) 『リサーチ・デザイン：経営知識創造の基本技術』 白桃書房。

■ 修士論文作成に向けた履修推奨科目

生態会計特論、サステナビリティ経営特論、財務会計特論、管理会計特論、社会データサイエンス特論、定性研究法特論、経営財務特論、企業と社会特論ほか

■ 博士課程後期での研究指導実績

【過去に指導した学生の博士論文題目（学位取得年月）】

Biodiversity and Global Business: A Comprehensive Assessment of Business Motivation for Conservation of Biological Diversity（2013 年 3 月）

■ その他

企業、地域、資源を対象としたサステナビリティ会計を研究する場合、内部マネジメントとして管理会計や経営学を、また、外部報告として財務会計を特に重点的に学修しておく方が良いと考えます。マクロ会計やマクロレベルのサステナビリティ会計を研究対象とする場合は、国民経済計算やマクロ経済学の基礎的な知識を得ておくといよいでしょう。